

アイティフォー

集合住宅の共同玄関等に IPテレビ電話以外へ用途広がる

業界初のSIP対応IPビデオフォンを市場投入したアイティフォー。最新の「ITfone 2100シリーズ」投入を機に、IPビデオ電話以外の用途も睨む。まず、集合住宅のセキュリティ対策として共同玄関に用いる。また、空き交番の受付ツールとしても有望視されている。今後はビジネスホン機能を搭載し、一般企業へ拡販していく。

「集合住宅の共同玄関に設置し、各家庭の呼び出しに利用したいという話が多数寄せられている」。アイティフォーの執行役員で事業本部の真城和一本部長はこう語る。同社は今年1月、IPビデオフォンとしては初めて、オープンプロトコルのSIPを採用した「ITfoneシリーズ」を発売。6月に市場投入した最新の

「ITfone 2100シリーズ」は、折りたたんで携行できるモデルとなっている。

アイティフォーでは、ITfone 2100シリーズをIPテレビ電話以外の用途にも拡販したい意向で、その第1弾として集合住宅の共同玄関への適用を促進している。

近年の集合住宅は、セキュリティを重視。来訪者が共同玄関のインターフォンで氏名と用件を伝え、解錠してもらって部屋まで行く仕組みが増えている。そこへ、「さらに相手の顔が確認できれば、安心感が増すという声が多い」という。また、共同玄関のない集合住宅用に「各家庭の玄関ドアの前に設置し、ドアフォンと連携させたい」というニーズも寄せられており、これにも対応する予定だ。

空き交番対策用途も話が具体化している。警官の留守中に訪問者があると、外部センサーでこれをキャッチし、自動的に本署につながる仕組みだ。真城本部長は、「ほとんどの県警で2005年度予算で同様のシステムの採用を予定・決定している」と説明する。これに先駆け一部の県警では、04年度の補正予算でトライアルを開始する方針という。

もちろん、IPテレビ電話用途にも注力していく。前述の集合住宅からの引き合いでは、セキュリティ対策とともに、

「同じ集合住宅内で無料通話ができないか」という打診がある。これにはネットワーコムと準備を進めているASP型サービスを活用する。目玉は部屋番号を押すだけで通信を確立できる点で、SIPサーバー側で部屋番号の呼処理を行うように対応させる。

ビジネスホンの置き換えを狙う

真城本部長は今後のメインターゲットとして、「ビジネスホンの置き換え需要」をあげる。

そのための最大の課題は、ビジネスホン機能の搭載だ。グループ保留や各種の転送機能など、求められる機能は多い。

また、MPEG-4の搭載も予定。これにより、映像配信等がスムーズに行えるようになり、「社長の訓示を全拠点にストリーミング配信したい」などの企業ニーズにも対応できる。

すでにベースとなるモデルは完成し、今後はデザインを詰めていく。「SIP対応のIPビデオフォンは、すぐに他社も追随してくるだろう。当社はビジネスホン機能をいち早く搭載することで、差別化を図っていきたい」と真城本部長は意欲を語る。製品のリリースは年内を予定している。

お問い合わせ先

株式会社アイティフォー

事業本部 商品開発室

TEL : 03-5275-7903

URL : <http://www.itfor.co.jp/>



ITfone 2100シリーズ